

紀要

■『紀要』刊行30周年記念号

- 縄文時代初頭の移動とルートについて…………… 重田 勉 (1)
- 近江地域のカマド形土器
—渡来系集団の動向把握にむけて— …………… 辻川 哲朗 (6)
- 出土文字資料に近江古代史を求めて
—付表「滋賀県下の発掘調査で検出した地震跡」— …………… 濱 修 (18)
- 正倉院文書に見える三雲寺の所在地について…………… 小松 葉子 (26)
- 奈良時代の地域開発と神社本殿
—蒲生野・金貝遺跡の調査成果から— …………… 中村 智孝 (39)
- 近江における瓦器の基礎的研究…………… 堀 真人 (50)
- 安土城の空間特性 —安土城は神社だ— …………… 大沼 芳幸 (67)
- 高島郡における山城の築城画期 …………… 小林 裕季 (75)
- 将棋史研究ノート8 —歩兵の存在感— …………… 三宅 弘 (84)
- 研究ノート 近代化の痕跡
—彦根市松原内湖遺跡の鉄道遺構・遺物— …………… 小島 孝修 (89)
- 琵琶湖地域における人と森の相互関係史の解明に向けて
—滋賀県の遺跡における古生態学データの集成— ……………
林 竜馬・佐々木 尚子・瀬口 真司 (97)

30

琵琶湖地域における人と森の相互関係史の解明に向けて

—滋賀県の遺跡における古生態学データの集成—

林 竜馬・佐々木尚子・瀬口眞司

1. はじめに

(1) 本報告の目的と位置付け

筆者らは、〈琵琶湖地域における人と森の相互関係史の解明〉に向けた共同研究を展開している。この取り組みの目的は、琵琶湖地域における歴史の復元・理解に必要な基盤づくりにあり、過去の生態系を理解しようとする古生態学の立場から地域の遺跡調査担当者に貢献していくことを目指している。

その基礎的作業の1つとして、滋賀県の遺跡における古生態学データ（花粉・大型植物遺体・出土木材等に関する自然科学分析データ）の集成に着手し、APPALE (Archaeological Palynology and PALeoEcology) と名付けたデータベースの構築を2013年度から開始した。これまでの作業で2000冊を超える報告書を対象に検索を進めることができた。ここでその中間的な成果を報告し、問題点と課題を明確にしたうえで、今後の展開の礎を設けたい。

本共同研究の現状は、集成を終えた直後に位置づけられる。そのため、〈人と森の相互関係史〉に関する具体的な成果を述べる段階にはまだ至っていないが、いくつかの問題点が見いだせた。最大の問題点は、試料の時期的・地域的偏在性である。琵琶湖地域における歴史の復元・理解に必要な基盤を構築していくには、どの時期・地域でも更なる資料数の増大が望まれる。しかし、現状では縄文時代中期以前のデータの蓄積が特に少ない。また、地域的には湖西や湖北地域におけるデータの蓄積が特に少ない。

今後の優先的な課題としては、試料と分析データ量の拡大・蓄積、そのための体制や環境づくりがあげられる。特に時期的には縄文時代中期以前、地域的には湖西や湖北地域のデータの確保を積極的に模索したい。そのためには遺跡発掘時の試料採取等について、何らかの工夫を講じていく必要があり、この点については調査担当者を含めた考古学・文化財関係者各位に助力を求めていきたいと考えている。この中間的な報告はその足掛かりとして位置付けたい。

(2) 共同研究の背景

本共同研究の主題は、単なる森林環境の変遷ではない。過去の〈人間活動に伴う資源利用や土地利用の変遷〉と〈植生環境の変遷〉の相互関係について論じ、複眼的な観点から地域の歴史を掘り起こすことを主題とする。

このような観点からの検討は、琵琶湖周辺地域においても、水野（2009）による中世における歴史学的研究や、瀬

口（2002）による森林植生とその推移に関する考古学的な論考などにより進められてきた。特に、考古学分野では、古生態学的手法を取り入れた環境考古学が提唱され、広く浸透している（松井編 2003、安田編 2004、外山2008）。また、発掘調査の担当者を対象に、現場での発掘調査に即したマニュアルも作成されている（山崎・上中編 2014）。

この〈人と森の相互関係史〉に対する問題意識は、考古学や歴史学的な観点だけでなく、生態学（e.g., 須賀2008）や古気候学（e.g., Gaillard et al. 2010）の分野においても近年注目を集め、成果が蓄積されつつある。

ただし、これまでの古生態学的手法による過去の森林環境の復元には問題点も多い。まず、これらの研究では花粉分析などが重要な役割を果たしてきたが、花粉組成が反映する植生の空間的スケールが曖昧なため、分析データがどの範囲の植生を示しているのか判然としないケースが多い。さらに、ボーリングデータなどの場合、考古学的な調査・研究成果との時期的なマッチングも容易ではない。これらが障壁となり、従来の手法では人間活動による自然環境の改変の程度やその影響の十分な解明にはまだ至っていない。

このような研究状況を乗り越えるため、本共同研究では〈滋賀県〉と〈遺跡〉に焦点を当て、そこで採取された古生態学データの集成と分析を進めることにする。

その利点は2つある。まず、〈滋賀県〉には、比較的広い範囲の植生を反映していると考えられる、堆積盆の大きな湖沼や湿原堆積物の花粉分析成果が既に蓄積されてきている（佐々木 2007）。このことにより、対象地域における森林環境の基盤的な変遷を俯瞰することができるし、その上で時期的・地域的な対比も展開できるだろう。

もう1つの利点は、〈遺跡〉における花粉分析結果は、湖沼などと比べてより狭い範囲の局地的な植生を反映していると考えられる点であり、また植生環境の空間的な分布の把握や考古学的編年との直接対比が可能な点である。滋賀県の場合、縄文時代以降の遺跡の調査も多く、花粉分析や大型植物遺体、出土木材同定といった自然科学的な調査が合わせて実施されていることも少なくないため、過去の植生分布を定量的に復元できる可能性がある。

以上のような観点と方針に基づき、本共同研究では、琵琶湖周辺地域における縄文時代以降の植生環境を定量的に復元することを目指し、その基礎資料として遺跡における古生態学データに注目して研究を進める。本論では、これまで包括的な検討が十分に進められていない、滋賀県の遺跡における古生態学データの収集を行った結果を示し、そ

の現状と課題を整理することを目指す。

2. 調査地の概要

滋賀県は近畿地方に位置し、その中央には水運の要であった琵琶湖が存在しており、古くから人間が生活を営んできた地域である。考古学的な遺跡の発掘調査も数多く実施されてきており、粟津湖底遺跡での動植物利用実態の研究（瀬口 2016）をはじめとして、遺跡における古生態学的な分析が発掘調査にあわせて行われている例も多い。

琵琶湖を中心としてその周辺には、沖積低地や丘陵地が広がり、その周囲は標高1000mを超える山地に囲まれている。また、同じ近江盆地でありながら、湖北は日本海岸側の気候の特性が強く、湖南は瀬戸内海の気候の状態に近い（内田 1976）。そのような地形的、気候的特徴に従って、琵琶湖周辺地域には多様な植生が存在している。滋賀県では、沖積低地から丘陵部、山地の標高約700m付近まではヤブツバキクラス域の暖温帯常緑広葉樹林が、その上部にはブナクラス域の冷温帯落葉広葉樹林が広がっている（小林 1997）。ただし、この植生帯の境界は気候の南北差により、中部以北にいくにしたがって日本海型気候の影響を受け、標高400m近くまで下降する（小林 1997）。また、現在滋賀県の平野部のほとんどは住宅地や工場地、田畑に覆われているが、人間の開発以前には、河畔に成立するシラカシ群集・ケヤキ亜群集やタブノキイノデ群集、沖積平野に成立するハンノキ林、丘陵地や沖積低地に成立するシイカナメモチ群集などの多様な潜在自然植生が広がっていたと考えられる（小林 1997）。

また、琵琶湖の周辺地域においては、湖沼や湿原堆積物を用いた花粉分析による古生態学的研究が多く実施され、地域的な森林植生の移り変わりについての知見が得られている。琵琶湖の湖底堆積物を用いた花粉分析の結果（Hayashi et al. 2010）から、琵琶湖周辺では15,000 cal yr BP 頃以降になると、最終氷期最盛期に優勢であったマツ科針葉樹は減少し、カバノキ属やコナラ亜属、クマシデ/アサダ属、ブナをはじめとする落葉広葉樹が増加、7,000～2,000 cal yr BP 頃には、落葉広葉樹にかわってアカガシ亜属を中心とした照葉樹林が拡大したことが明らかにされている。くわえて、琵琶湖周辺でも、地域や標高の違いによって植生の変化やその時期は異なっていたことが、湿原堆積物を用いたこれまでの研究成果から示されている（高原 1998、佐々木 2007）。

3. 資料と方法

滋賀県の遺跡における古生態学データを悉皆的に収集するため、2013年度の10～3月にかけて、滋賀県立琵琶湖博物館の図書収蔵庫に保管されている全2236冊の滋賀県内の発掘調査報告書の確認を行った。古生態学データとして、花粉分析、大型植物遺体分析、出土木材同定、プラントオ

パール（植物珪酸体）分析、珪藻分析、動物遺体分析を対象に、これらの分析結果が掲載されている文献の収集を行い、リストを作成した。今回、収集を行った遺跡の古生態学データは、APPALEデータベースとして整理した。

古生態学データの考古学的編年については、基本的に瀬口（2015）に準拠した。瀬口（2015）による時代区分が行われていない古墳時代以降については、飛鳥、奈良、平安前期、平安中期、平安後期、鎌倉、室町、安土桃山、江戸をそれぞれ区分した。それぞれの分析層準について、報告書内での記載に基づいて各時代コードの割り振りを行い、時期が認定されていない層準でのデータは時代不明とした。複数の時代にまたがる可能性のある層準の古生態学データについては、可能性のある全ての時代のデータとして重複して時代の認定を行った。例えば、縄文中期と報告書内で記載されている層準のデータについては、縄文中期前葉、中葉、後葉全ての時代コードを割り振り、それぞれの時代に重複してデータの集計を実施した。

データの入力・整理にあたっては、国際的な古生態学データベースであるNeotoma Paleocology databaseに従い、Tilia形式を採用した（<http://www.neotomadb.org>）。APPALEデータベースの遺跡分布図については、緯度経度の情報を報告書内の記載および遺跡位置図から読み取り、全ての地点を世界測地系に変換した後、QGIS software ver. 2.14（QGIS Development Team, 2016）を用いて作図を行った。分布図の地図データについては、OpenStreetMap（<http://openstreetmap.org>）を用いた。

4. APPALEデータベース集成結果の中間的報告と考察

(1) 集成された古生態学データの概要

滋賀県内の遺跡の発掘調査報告書、全2236冊を調査した結果、198点の発掘調査報告書の中に古生態学データが記載されていた。表1に、APPALEデータベースに記録された発掘調査報告書のリストと、それぞれの報告書内に記載されている古生態学データの分析項目を示した⁽¹⁾。

APPALEデータベースに含まれる、分析項目別の古生態学データ点数について、報告書数ベースでまとめたものを図1に示す。本研究の結果、滋賀県においては、花粉分析データが59点、大型植物遺体分析データが58点、出土木材同定データが128点、プラントオパール（植物珪酸体）分析データが27点、珪藻分析データが11点、動物遺体分析データが27点の報告書にそれぞれ記載が認められた。

(2) 古生態学データの存在する遺跡の分布傾向

APPALEデータベースに含まれる、古生態学データの存在する滋賀県の遺跡の分布を図2に示した。この分布図から、滋賀県では琵琶湖南湖周辺や旧中主町周辺の低地部において、多くの古生態学データが蓄積されていることが明らかになった。また、湖東低地や米原市周辺の低地部において

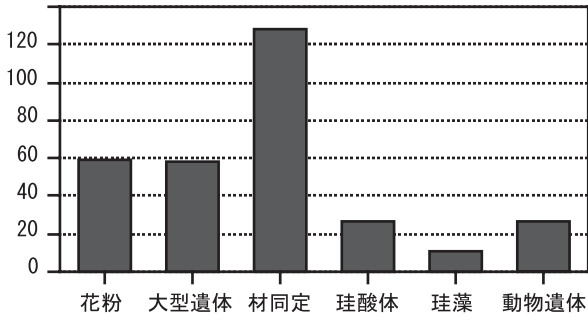
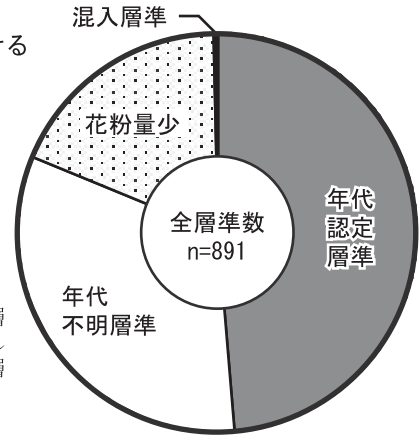


図1 滋賀県の遺跡での古生態学データが記載されている分析項目ごとの報告書数

図4 滋賀県の遺跡における花粉分析層準の年代決定の可否についての内訳



花粉含有量が少ない層準、土壌や葯が混入したと記載されている層準は分けて示した。

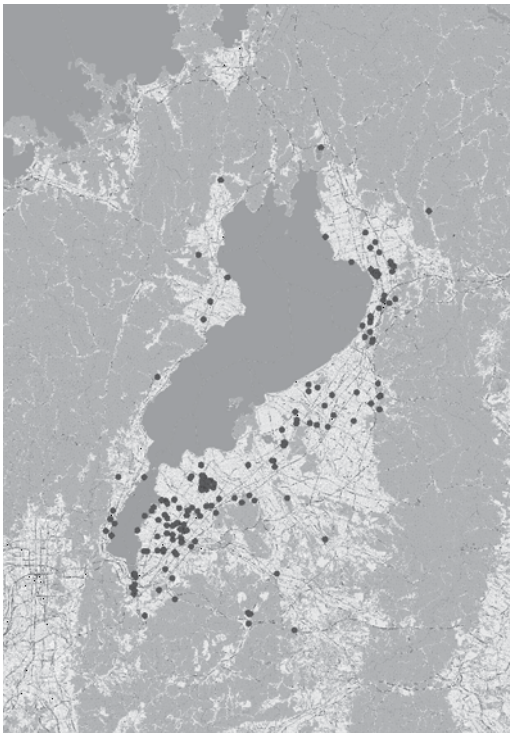


図5 滋賀県の遺跡における花粉分析データの時代別層準数

複数の時代にまたがる年代認定がされている層準は可能性のある全ての時代に重複して集計を行った。

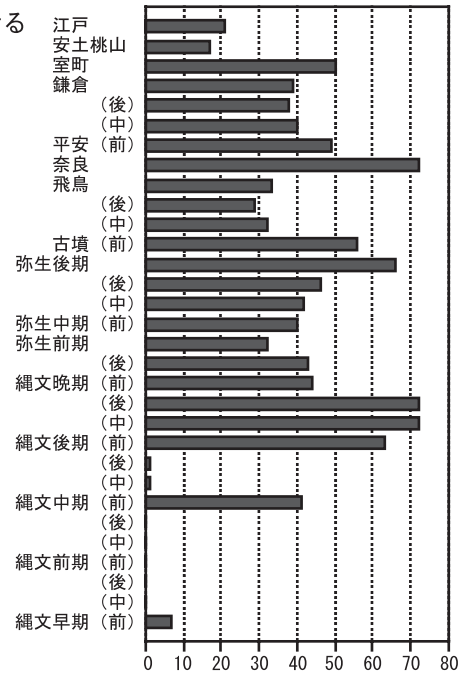


図2 古生態学データの存在する滋賀県の遺跡の分布

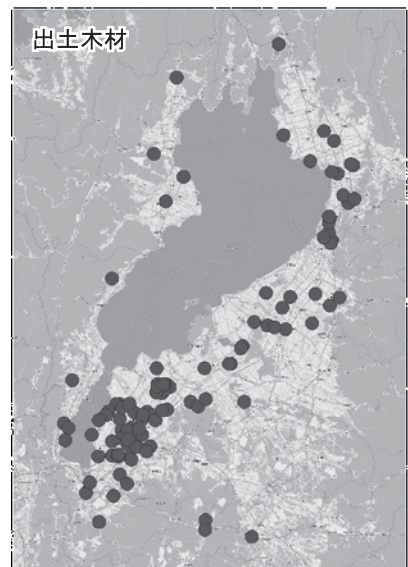
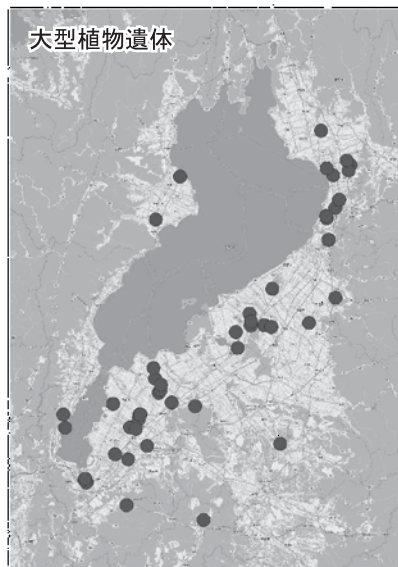
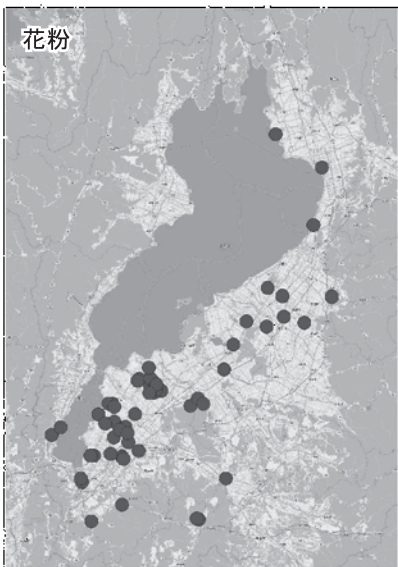


図3 花粉分析、大型植物遺体分析、出土木材同定データの存在する滋賀県の遺跡の分布

も、比較的多くの古生態学データが認められた。その一方で、湖西や湖北地域における古生態学データは非常に限られており、今後の蓄積が期待される。

図3には、APPALEデータベースの中で多くの分析データが認められた、花粉分析、大型植物遺体分析、出土木材同定データの分布を示した。分析項目別に見ても、湖南地域の低地での分析が多く、湖西や湖北地域での分析が少ないという同様の傾向が認められる。特に、花粉分析データがある遺跡の分布は湖南地域に偏っており、湖西や湖北地域では非常に限られていることが明らかになった。

(3) 遺跡における花粉分析データの時期的傾向

ここでは、APPALEデータベースの分析項目から、花粉分析データに着目し、報告書内に記載されている考古学編年に従って、各時代別の分析層準数をまとめた。APPALEデータベースを整理した結果、滋賀県においては全891層準での花粉分析データが蓄積・公表されていることが明らかになった。その中で、約半数にあたる分析データが報告書内で時代認定が記載されている層準での分析結果であり、その約3割は地層の年代が記載されていない層準、約2割は花粉含有量が少ない層準での分析結果であった（図4）。年代認定が行われた層準での花粉分析データの時代別層準数（図5）を見ると、縄文時代中期まではデータが限られていることが明らかになった。一方で、縄文時代後期から中世にかけては、各時代区分の中で30～70層準程度の花粉分析データが蓄積されていることが示された。

この結果は、APPALEデータベースの花粉分析データを整理して、解析を行うことにより、特に縄文時代後期から中世にかけての地域的な植生の復元とその時空間的な変遷が解明できる可能性を示している。ただし、ここで示している各時代の花粉分析データには、特定の時代が認定されおらず、複数の時代にまたがる可能性がある層準での分析も多く含まれているため、より厳格な考古学編年との対比のためには単一の時代認定が明確である層準での分析データを取捨選択していくことも必要になる。

また、先述のようにAPPALEデータベースの花粉分析データの分布は湖南地域に偏っており、湖西や湖北地域では限られていることから、総体としては湖南地域周辺における森林植生の組成を強く反映しているデータである。滋賀県の中での空間的な植生分布を復元するためには、今後は湖西や湖北地域での花粉分析データを蓄積していくことが必要である。

5. APPALEデータベースの活用と今後の課題

以上、琵琶湖地域における歴史の復元・理解に必要な基盤づくりを目指し、また地域の遺跡調査担当者に古生態学の立場から貢献していくために、滋賀県の遺跡における古生態学データの集成について中間的な報告を試みた。

APPALEデータベースの今後期待できる活用の途として2点を挙げたい。第1点は、今回の調査で得られたAPPALEデータベースの花粉分析データを基に琵琶湖地域における植生環境を明らかにしていくことである。この際、試料が示す空間スケールの問題が課題として残るが、これに関しては、花粉の飛散・堆積モデルを基にして、花粉の生産性と飛散性を考慮し、堆積物中の花粉組成から過去の植生量を定量的に復元するための理論モデルが構築されている（Sugita 2007a, b）。ヨーロッパを中心にその応用が進められ（e.g., Hellman et al. 2008, Soepboer 2010）、日本においても、同様の花粉飛散モデルを基にした定量的植生復元手法の検討が始められている。これらの試みが今後の作業の参考になるだろう。今回、遺跡のような小さい堆積盆のデータが集成できたので、その花粉組成から人間の生活域周辺での定量的な植生分布の復元を進め、人間と森林生態系との相互関係史の理解を深めていきたい。

第2点は、縄文時代以降の人間と森林生態系との相互関係史の理解を深めていくことである。APPALEデータベースの中には、花粉分析だけでなく、大型植物遺体分析や出土木材同定についての分析結果も多く含まれている。これらの古生態学データを総合的に整理していくことにより、過去に琵琶湖周辺で暮らしてきた人々が、それぞれの時代に広がっていた植物資源をどのような形で利用してきたのかを明らかにできるだろう。花粉分析データが主に示す遺跡周辺における森林植生の実態と大型植物遺体や木材遺物が示す人々の植物資源利用との関係性を捉えて、その時空間的な変遷を明らかにすることが期待できる。

一方で今後の活用へ向けた課題・問題点として、下記の2点を挙げたい。第1点は、これらの蓄積された古生態学データを、多くの研究者に紹介し、利用してもらうことであり、それを目指してデータベースの公開と利用を推進していくことである。近年になって、遺跡からの出土木材同定の分析データについては木の考古学（伊東・山田編2012）として網羅的にまとめられたデータベースが出版され、大型植物遺体分析についても同様に国立歴史民俗博物館のデータベースとして公開が行われた（石田ほか2016）。また、世界規模での古生態学データベースであるNeotoma Paleocology databaseの構築が進められており、そのような国際的データベースへの統合も視野に入れていくことが将来的には重要である。

第2点は、遺跡における古生態学データの時期的・地域的偏在性に関わる問題点である。どの時期・地域でも更なる資料数の増大が望ましいが、特に縄文時代中期以前のデータと、湖西や湖北地域における各時期のデータの蓄積が少ない。今後の優先的な課題として、試料と分析データ量の拡大・蓄積、そのための体制や環境づくりがあげられる。

筆者の林（滋賀県立琵琶湖博物館：hayashi@lbm.go.jp）と佐々木（京都府立大学）は花粉分析を用いた古植生の復

元を専門としており、花粉分析用資料の採取・分析には積極的に関与できる。花粉資料は、通常、低湿な環境でよく遺存するので、このような状況の遺跡を調査する機会は協力体制を構築していく好機になる可能性がある。例えば、琵琶湖博物館の地学研究室や公益財団法人滋賀県文化財保護協会などを窓口とした連絡・協力体制の構築など、具体的な方策を模索していきたい。遺跡における包括的な文理融合研究に基づく人と森の相互関係史の解明という新たな視点を含んだ、琵琶湖地域における歴史の復元・理解に必要な基盤づくりのため、調査担当者をはじめとする考古学・文化財担当者各位にはご助力を願うところである。

【謝辞】 本研究を進めるにあたっては、琵琶湖博物館の用田政晴氏、國分政子氏から、滋賀県の発掘報告書についてご教授いただくとともに、多くの報告書を提供していただいた。京都大学博物館の村上由美子准教授には、木質遺物に関する多くのご助言をいただいた。京都府立大学の川村奈々氏、嶋田美咲氏、柴崎大樹氏には、データの入力と整理作業に尽力いただいた。上記の方々に御礼申し上げる。

本研究は、JSPS科研費 JP25871229、JP15H03248、JP26292087の助成を受けたものである。あわせて、滋賀県立琵琶湖博物館の総合研究費（2014～2018年度）、申請専門研究費（2013年度）、専門研究費（2014～2015年度）により研究を実施した。

註

(1) 表1に収載したものの以外で、古生態学データが掲載された報告書にお気付きの際には、林 (hayashi@lbm.go.jp) 宛にご教示いただければ幸甚である。

文献（著者名・刊行機関名50音・アルファベット順，刊行年順）

Gaillard M-J, Sugita S, Mazier F, Trondman A-K, Broström A, Hickler T, Kaplan JO, Kjellström E, Kokfelt U, Kunes P, Lemmen C, Miller P, Olofsson J, Poska A, Rundgren M, Smith B, Strandberg G, Fyfe R, Nielsen AB, Alenius T, Balakauskas L, Barnekow L, Birks HJB, Bjune A, Björkman L, Giesecke T, Hjelle K, Kalnina L, Kangur M, van der Knaap W, Koff T, Lagerås P, Latalowa M, Leydet M, Lechterbeck J, Lindbladh M, Odgaard B, Peglar S, Segerström U, von Stedingk H, Seppä H (2010) Holocene land-cover reconstructions for studies on land cover-climate feedbacks. *Climate of the Past* 6: 483-499.

Hayashi R, Takahara H, Hayashida A, Takemura K (2010) Millennial-scale vegetation changes during the last 40,000 years based on a pollen record from Lake Biwa, Japan. *Quaternary Research* 74: 91-99.

Hellman S, Gaillard M-J, Broström A, Sugita S (2008) The REVEALS model, a new tool to estimate past regional plant

abundance from pollen data in large lakes: validation in southern Sweden. *Journal of Quaternary Science* 23: 21-42.

Soepboer W, Sugita S, Lotter AF (2010) Regional vegetation-cover changes on the Swiss Plateau during the past two millennia: A pollen-based reconstruction using the REVEALS model. *Quaternary Science Reviews* 29: 472-483.

Sugita S (2007a) Theory of quantitative reconstruction of vegetation I: pollen from large sites REVEALS regional vegetation composition. *The Holocene* 17: 229-241.

Sugita S (2007b) Theory of quantitative reconstruction of vegetation II: all you need is LOVE. *The Holocene* 17: 243-257.

QGIS Development Team (2016) QGIS Geographic Information System. Open Source Geospatial Foundation Project. <http://www.qgis.org/>.

石田糸絵・工藤雄一郎・百原新(2016)「日本の遺跡出土大型植物遺体データベース」『植生史研究』24: 18-24

伊東隆夫・山田昌久(2012)「木の考古学 出土木製品用材データベース」、海青社

小林圭介(1997)「滋賀県の森林と植生」『滋賀の植生と植物』（小林圭介編）pp.25-60、サンライズ出版株式会社

松井章編(2003)『環境考古学マニュアル』、同成社

水野章二(2009)『中世の人と自然の関係史』、吉川弘文館

佐々木尚子(2007)「琵琶湖周辺における『丸木舟の時代』の植生」『丸木舟の時代—びわ湖と古代人—』（財団法人滋賀県文化財保護協会編）pp.186-200、サンライズ出版株式会社

瀬口眞司(2002)「琵琶湖周辺地域における縄文時代の森林植生とその推移」『紀要』15: 1-12、財団法人滋賀県文化財保護協会

瀬口眞司(2015)「縄文時代～古墳時代前期の集団規模の推移—琵琶湖周辺地域における先史社会の展開過程に関する覚書（1）」『紀要』28:1-12、財団法人滋賀県文化財保護協会

瀬口眞司(2016)『琵琶湖に眠る縄文文化粟湖底遺跡』、新泉社

須賀丈(2008)「中部山岳域における半自然草原の変遷史と草原性生物の保全」『長野県環境保全研究所研究報告』4: 17-31

高原光(1998)「近畿地方の植生史」『図説日本列島植生史』（安田喜憲・三好教夫編）pp.114-137、朝倉書店

外山秀一(2008)『自然と人間との関係史』、古今書院

内田秀雄(1976)「滋賀県総説 気候」『日本地誌第13巻近畿地方総論・三重県・滋賀県・奈良県』（青野壽郎・尾留川正平編）pp.419-423、二宮書店

山崎健・上中央子編(2014)「現場のための環境考古学」『埋蔵文化財ニュースNo.155』pp.1-20、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財センター

安田喜憲編(2004)『環境考古学ハンドブック』、朝倉書店

（はやし りょうま：滋賀県立琵琶湖博物館 学芸員）
 （ささき なおこ：京都府立大学 共同研究員）
 （せぐち しんじ：滋賀県文化財保護協会 安土分室長）

表1 関連データ一覧

書誌情報は、APPAL番号、編著者、(発行年)、『書名』(シリーズ名)、発行者の順で記した。ただし、編著者と発行者が同一の場合は、発行者を省略した。また、滋賀県教育委員会は「県教委」、滋賀県文化財保護協会は「協会」と略し、各市町村教育委員会については市町村名に「教委」を付した。AP=APPAL番号、大型=大型植物遺体、樹種=樹種同定、珪酸=植物珪酸体、動物=動物遺体の略である。欠番の文献は、本論では取り上げなかった製鉄遺跡等の木材資源利用に関する資料。

AP-	遺跡名	花粉	大型	樹種	珪酸	珪藻	動物	掲載文献
1	鴨遺跡		○					県教委(1980)『鴨遺跡』(高島町歴史民俗叢書第二輯)高島町教委
2	野路小野山製鉄遺跡			○				草津市教委(2003)『野路小野山製鉄遺跡発掘調査報告書』(草津市文化財調査報告書52)
3	野路小野山製鉄遺跡			○				草津市教委(2007)『野路小野山製鉄遺跡範囲確認発掘調査報告書』(草津市文化財調査報告書63)
4	中沢遺跡			○				草津市教委・協会(2013)『宅地造成工事に伴う発掘調査報告書 中沢遺跡』(草津市文化財調査報告書97)
5	古高・経田遺跡		○	○				守山市教委(2005)『古高遺跡・経田遺跡発掘調査概要報告書』(守山市文化財調査報告書)
6	下長遺跡	○	○					守山市教委(2008)『下長遺跡第22次発掘調査報告書』(守山市文化財調査報告書)
7	下長遺跡			○				守山市教委(2010)『下長遺跡第23次発掘調査報告書』(守山市文化財調査報告書)
8	播磨田東遺跡			○				守山市教委(2010)『播磨田東遺跡第17次発掘調査報告書』(守山市文化財調査報告書)
9	酒寺遺跡			○				守山市教委(1997)『二ノ畦遺跡・酒寺遺跡発掘調査報告書』(守山市文化財調査報告書第62冊)
10	伊勢遺跡			○				守山市教委(2009)『伊勢遺跡確認調査報告書VII』(守山市文化財調査報告書)
11	下之郷遺跡		○					守山市教委(2013)『下之郷遺跡確認調査報告書VII 第55・56・57・58次調査報告書』
12	比留田法田・湯ノ部遺跡	○			○			中主町教委・中主町埋蔵文化財調査会(1987)『県道荒見・上野・近江八幡線単独道路改良工事(木部・八夫工区)に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書』(中主町文化財調査報告書第14集)
13	六条遺跡	○		○				中主町教委(1988)『昭和62年度中主町内遺跡分布調査(II)概要報告書』(中主町文化財調査報告書第15集)
14	光相寺遺跡	○		○				中主町教委(1989)『昭和63年度中主町内遺跡分布調査(II)概要報告書』(中主町文化財調査報告書第19集)
15	西河原森ノ内遺跡			○				中主町教委(1990)『西河原森ノ内遺跡第1・2次発掘調査報告書I』(中主町文化財調査報告書第21-1集)
16	吉地薬師堂遺跡				○			中主町教委(1990)『平成元年度中主町内遺跡分布調査(II)概要報告書』(中主町文化財調査報告書第25集)
17	八夫流遺跡	○			○			中主町教委(1991)『平成2年度中主町内遺跡分布調査(II)概要報告書』(中主町文化財調査報告書第29集)
18	木部・虫生遺跡			○				中主町教委(1993)『県道野洲中主線関連遺跡発掘調査報告書』(中主町文化財調査報告書第37集)
19	吉地薬師堂・西河原森ノ内	○			○			中主町教委(1993)『中主町内遺跡分布調査(II)調査報告書』(中主町文化財調査報告書第39集)
20	堤遺跡	○			○			中主町教委(1994)『堤遺跡第1次発掘調査報告書』(中主町文化財調査報告書第43集)
21	光相寺遺跡			○				中主町教委(2001)『平成11年度中主町内遺跡発掘調査年報』(中主町文化財調査報告書第60集)
22	堤遺跡 第2・3次	○						中主町教委(2001)『堤遺跡第2・3次発掘調査報告書』(中主町文化財調査報告書第62集)
23	兵主神社	○	○					中主町教委(2002)『名勝兵主神社庭園保存整備報告書 発掘調査編』(中主町文化財調査報告書第65集)
24	野田沼遺跡	○	○	○		○		中主町教委(2003)『野田沼遺跡第1次発掘調査報告書』(中主町文化財調査報告書第66集)
25	西河原遺跡 第10次			○				中主町教委(2004)『平成14年度中主町内遺跡発掘調査年報』(中主町文化財調査報告書第67集)
26	西河原遺跡 第11次			○			○	中主町教委(2004)『平成15年度中主町内遺跡発掘調査年報』(中主町文化財調査報告書第70集)
27	宮町遺跡			○				信楽町教委(1989)『宮町遺跡発掘調査報告I 紫香楽宮関連遺跡』(信楽町文化財調査報告書第3集)
28	宮町遺跡			○				信楽町教委(1990)『宮町遺跡発掘調査報告II 紫香楽宮関連遺跡』(信楽町文化財調査報告書第4集)
29	宮町遺跡	○	○					信楽町教委(1994)『平成5年度遺跡発掘事前総合調査事業にかかる 紫香楽宮関連遺跡発掘調査報告』(信楽町文化財調査報告書第8集)
30	北牧野古墳群			○				県教委・協会(2003)『北牧野古墳群』(斧研川荒廃砂防事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)
31	上仰木遺跡			○				県教委(2010)『上仰木遺跡』(伊香立浜大津線道路改築事業に伴う発掘調査報告書)
32	久野部遺跡			○				県教委(1980)『久野部遺跡発掘調査報告書 七ノ坪地区 2』県教委・野洲町教委・協会
33	屋中寺庵寺遺跡			○				県教委・協会(1998)『屋中寺庵寺遺跡』(県営一般農道整備事業関連遺跡発掘調査報告書)
34	東谷遺跡			○				県教委・協会(2004)『東谷遺跡』(天川ダム障害防止対策事業に伴う発掘調査報告書)
35	芦浦遺跡	○						県教委・協会(1998)『芦浦遺跡 本文編』(滋賀県住宅供給公社芦浦住宅団地建設に伴う発掘調査報告書)
36	粟津貝塚湖底遺跡・草津市御倉町ボーリングコア	○	○				○	県教委・協会(1984)『粟津貝塚湖底遺跡』
37	石田三宅遺跡			○				県教委・協会(1991)『滋賀県住宅供給公社宅地造成事業に伴う 石田三宅遺跡発掘調査報告書II』
38	宮前遺跡			○				県教委・協会(2004)『宮前遺跡』(大津湖南幹線都市計画街路整備事業に伴う発掘調査報告書I)
39	鍛冶屋敷遺跡			○				県教委(2006)『鍛冶屋敷遺跡』
40	高野城遺跡			○				県教委・協会(2008)『高野城遺跡』(近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う発掘調査報告書3)
41	柳遺跡	○			○			県教委(1980)『柳遺跡III』(草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告書X)
42	柳遺跡	○		○				県教委・協会(2008)『柳遺跡IV 本文編』(草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告書XI)
43	襖遺跡			○				県教委・協会(2000)『襖遺跡』(草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告書IV)
44	柳遺跡	○	○	○	○			県教委・協会(2004)『柳遺跡I 下戸遺跡』(草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告書VII)県教委
45	久野部遺跡			○				県教委(1977)『久野部遺跡発掘調査報告書 七ノ坪地区』県教委・野洲町教委・協会
46	中畑遺跡			○				県教委・協会(2005)『中畑遺跡II』(草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告書VIII)
47	宮前遺跡	○	○					県教委・協会(1995)『草津市川原町における計量検定所建設工事に伴う 宮前遺跡発掘調査報告書』
48	稲里遺跡	○	○					県教委・協会(2002)『稲里遺跡』(県営一般農道整備事業関連遺跡発掘調査報告書)
49	入江内湖西野遺跡			○				県教委・協会(2002)『入江内湖西野遺跡』(県道彦根米原線緊急地方道路整備事業に伴う発掘調査報告書)
50	吉身西遺跡			○	○			県教委・協会(2002)『吉身西遺跡』(県立成人病センター改築事業に伴う発掘調査報告書)
51	下五反田遺跡			○	○			県教委・協会(2004)『下五反田遺跡』(県道小浜朽木高島線改良工事に伴う発掘調査報告書)
52	小比江遺跡			○				県教委・協会(1994)『小比江遺跡・太田遺跡』(県道荒見上野近江八幡線改良工事に伴う中主町内遺跡発掘調査報告書I)

琵琶湖地域における人と森の相互関係史の解明に向けて（林竜馬・佐々木尚子・瀬口眞司）

AP-	遺跡名	花粉	大型	樹種	珪酸	珪藻	動物	掲 載 文 献
53	中兵庫遺跡	○	○	○	○			県教委・協会(2001)『中兵庫遺跡(本文編)』(一般県道山田・草津線単独改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)
54	大東ほか遺跡			○				県教委・協会(1994)『今川東遺跡・十禅寺遺跡(事業名:大東ほか遺跡)』(県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書X-1)
55	今川東遺跡		○	○			○	県教委・協会(1995)『今川東遺跡』(県営灌漑排水事業関連遺跡発掘調査報告書XI-1)
56	市遺跡			○				県教委・協会(2003)『市遺跡(本文編)』(県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書18)
57	湯ノ部遺跡	○	○	○				県教委・協会(1995)『湯ノ部遺跡発掘調査報告書I』(県道荒見上野近江八幡線改良工事に伴う中主町内遺跡II)
58	長野遺跡	○						県教委・協会(1999)『長野遺跡』(県道愛知川彦根線緊急地方道路整備事業に伴う発掘調査報告書IV)
59	西河原宮ノ内遺跡	○		○				県教委・協会(2001)『西河原宮ノ内遺跡II』(県道荒見上野近江八幡線改良工事に伴う中主町内遺跡VI)
60	木部遺跡		○					県教委・協会(2002)『木部遺跡I』(県道荒見上野近江八幡線改良工事に伴う中主町内遺跡VII)
61	野洲川左岸遺跡			○				県教委・協会(1995)『県道大津能登川長浜線建設に伴う野洲川左岸遺跡発掘調査報告書(事業名:二ノ畦遺跡)』
62	滋賀里遺跡	○					○	協会・湖西線関係遺跡発掘調査団(1973)『湖西線関係遺跡調査報告書 本文編』県教委
63	後山・畦倉遺跡			○				県教委・協会(2007)『後山・畦倉遺跡』(国道161号(志賀バイパス)建設工事関係遺跡発掘調査報告書)
64	穴太遺跡			○				県教委・協会(1994)『一般国道161号(西大津バイパス)建設に伴う穴太遺跡発掘調査報告書I(本文編)』県教委
65	穴太遺跡	○	○	○				県教委・協会(1997)『一般国道161号(西大津バイパス)建設に伴う穴太遺跡発掘調査報告書II(本文編)』
66	針江川北(II)・吉武城遺跡			○				県教委・協会(1993)『針江川北(II)遺跡・吉武城遺跡(本文編)』(一般国道161号(高島バイパス)建設に伴う新旭町内遺跡発掘調査報告書V)
67	関津遺跡			○				県教委・協会(2008)『関津遺跡』(国道422号道路改築事業に伴う発掘調査報告書)
68	入江内湖遺跡		○	○			○	県教委・協会(2003)『入江内湖遺跡I』(一般国道8号米原バイパス建設に伴う発掘調査報告書1)
69	入江内湖遺跡		○	○			○	県教委・協会(2008)『入江内湖遺跡II』(一般国道8号米原バイパス建設に伴う発掘調査報告書2)
70	十里遺跡	○		○				県教委・協会(2010)『十里遺跡』(主要地方道草津守山線(十里)緊急地方道路整備事業に伴う発掘調査報告書2)
71	欲賀西遺跡			○				県教委・協会(1992)『滋賀県住宅供給公社宅地造成事業に伴う欲賀西遺跡発掘調査報告書』
72	螢谷遺跡			○			○	県教委・協会(1992)『螢谷遺跡・石山遺跡』(瀬田川浚渫工事他関連埋蔵文化財発掘調査報告書I)
73	六反田遺跡			○				県教委・協会(2013)『六反田遺跡 I』(中山間地域総合整備関係遺跡発掘調査報告書3-1)
74	六反田遺跡		○	○				県教委・協会(2013)『六反田遺跡 II』(中山間地域総合整備関係遺跡発掘調査報告書3-2)
75	佐和山城跡			○				県教委・協会(2013)『佐和山城跡』(中山間地域総合整備関係遺跡発掘調査報告書3-3)
76	後川遺跡	○			○			県教委・協会(1996)『後川遺跡(事業名:高木遺跡)』(長命川(蛇砂川)中小河川改修工事関連埋蔵文化財調査報告6)
77	安土城跡	○						県教委・滋賀県安土城郭調査研究所(1993)『特別史跡安土城跡発掘調査報告3 大手道および伝前田利家邸跡』
78	宮前遺跡			○				県教委・協会(1998)『(仮称)滋賀県土木技術管理センター施設整備事業に伴う宮前遺跡発掘調査報告書』
79	安土城跡			○				県教委・滋賀県安土城郭調査研究所(2002)『特別史跡安土城跡発掘調査報告12 主郭中心部天主台・本丸・本丸取付台伝名坂跡の調査(本文編)』
80	下鈎遺跡	○				○		県教委・協会(2003)『下鈎遺跡 本文編』(中ノ井川放水路事業に伴う発掘調査報告書1)
81	下鈎遺跡			○				県教委・協会(2005)『下鈎遺跡』(中ノ井川放水路事業に伴う発掘調査報告書2)
82	鴨田遺跡			○				県教委・協会(1994)『長浜新川中小河川改修工事に伴う鴨田遺跡発掘調査報告書III』
83	久徳家墓地遺跡			○				県教委・協会(1986)『葉山川改修工事に伴う栗東町久徳家墓地遺跡発掘調査報告書』
84	源内峠遺跡			○				県教委・協会(2001)『源内峠遺跡』(びわこ文化公園整備事業に伴う発掘調査報告書)
85	栗津湖底遺跡第3貝塚	○	○	○				協会(1997)『栗津湖底遺跡第3貝塚(栗津湖底遺跡 I) 本文編』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書1) 県教委・協会
86	栗津湖底遺跡第3貝塚		○	○				協会(1997)『栗津湖底遺跡第3貝塚(栗津湖底遺跡 I) 図版編・付表』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書1) 県教委・協会
87	赤野井浜遺跡			○				県教委・協会(2009)『赤野井浜遺跡 第1分冊(本文編1)』(琵琶湖(赤野井湾)補助河川環境整備事業に伴う発掘調査報告書)
88	赤野井浜遺跡	○		○	○		○	県教委・協会(2009)『赤野井浜遺跡 第2分冊(本文編2)』(琵琶湖(赤野井湾)補助河川環境整備事業に伴う発掘調査報告書)
89	赤野井浜遺跡			○				県教委・協会(2009)『赤野井浜遺跡 第3分冊(平成15・16年度遺物実測図・遺物一覧表編)』(琵琶湖(赤野井湾)補助河川環境整備事業に伴う発掘調査報告書)
90	松原内湖遺跡			○				県教委・協会(1992)『琵琶湖流域下水道彦根長浜処理区東北部浄化センター建設に伴う松原内湖遺跡発掘調査報告書II 木製品(本文編)』
91	赤野井湾遺跡			○				県教委・協会(1998)『赤野井湾遺跡 第2分冊』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書2)
92	赤野井湾遺跡		○					県教委・協会(1998)『赤野井湾遺跡 第3分冊』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書2)
93	赤野井湾遺跡	○	○	○	○	○	○	県教委・協会(1998)『赤野井湾遺跡 第4分冊』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書2)
94	赤野井湾遺跡		○					県教委・協会(1998)『赤野井湾遺跡 第5分冊(写真図版)』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書2)
95	赤野井湾遺跡		○					県教委・協会(1998)『赤野井湾遺跡 第6分冊(写真図版)』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書2)
96	栗津湖底遺跡	○	○	○		○		県教委・協会(2000)『栗津湖底遺跡 自然流路(栗津湖底遺跡 III)』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書3-2)
97	小津浜遺跡	○		○	○			県教委・協会(2002)『小津浜遺跡 第1分冊(本文)』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書6)
98	小津浜遺跡			○				県教委・協会(2002)『小津浜遺跡 第2分冊(図版・観察表)』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書6)
99	早崎遺跡	○	○	○	○			県教委・協会(2003)『琵琶湖北東部の湖底・湖岸遺跡 葛籠尾崎湖底遺跡・寺ヶ浦遺跡・尾上浜遺跡・尾上遺跡・今西湖岸遺跡・延勝寺湖底遺跡・早崎遺跡・相撲湖底遺跡・豊公園湖底遺跡・磯湖底遺跡 第1分冊(本文編)』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書7)

琵琶湖地域における人と森の相互関係史の解明に向けて（林竜馬・佐々木尚子・瀬口眞司）

AP-	遺跡名	花粉	大型	樹種	珪酸	珪藻	動物	掲 載 文 献
100	相撲湖底遺跡			○				県教委・協会(2003)『琵琶湖北東部の湖底・湖岸遺跡 葛籠尾崎湖底遺跡・寺ヶ浦遺跡・尾上浜遺跡・尾上遺跡・今西湖岸遺跡・延勝寺湖底遺跡・早崎遺跡・相撲湖底遺跡・豊公園湖底遺跡・磯湖底遺跡 第2分冊(資料編)』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書7)
101	浮見堂・唐崎遺跡			○			○	県教委・協会(2008)『琵琶湖南西部の湖底・湖岸遺跡 真野舟溜・浮御堂遺跡・穴太遺跡・唐崎遺跡・大江湖底遺跡 第1分冊 本文編』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書8)
102	浮見堂・唐崎遺跡			○				県教委・協会(2008)『琵琶湖南西部の湖底・湖岸遺跡 真野舟溜・浮御堂遺跡・穴太遺跡・唐崎遺跡・大江湖底遺跡 第2分冊 写真図版編』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書8)
103	烏丸崎遺跡			○				県教委・協会(2008)『烏丸崎遺跡 津田江湖底遺跡 第1分冊 烏丸崎遺跡編』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書9)
104	津田江湖底遺跡	○		○	○	○		県教委・協会(2008)『烏丸崎遺跡 津田江湖底遺跡 第2分冊 津田江湖底遺跡編 総括編』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書9)
105	津田江湖底遺跡	○		○		○		県教委・協会(2008)『烏丸崎遺跡 津田江湖底遺跡 第3分冊 写真図版編』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書9)
106	七条浦・志那湖底遺跡			○				県教委・協会(2011)『七条浦遺跡・志那湖底遺跡 第1分冊 本文編』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書10)
107	北萱遺跡	○		○				県教委・協会(2013)『琵琶湖東南部草津川地域の湖底・湖岸遺跡 北山田湖底遺跡・矢橋湖底遺跡・矢橋港跡・北萱遺跡 第1分冊 本文編』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書12)
108	北萱遺跡	○		○				県教委・協会(2013)『琵琶湖東南部草津川地域の湖底・湖岸遺跡 北山田湖底遺跡・矢橋湖底遺跡・矢橋港跡・北萱遺跡 第2分冊 写真図版編』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書12) 県教委
109	栗津湖底遺跡			○				県教委(2013)『栗津第3貝塚・自然流路2(栗津湖底遺跡V)』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書13)
110	三堂遺跡		○					県教委・協会(1997)『三堂遺跡』(東込田川改修事業に伴う発掘調査報告書) 県教委
111	国友遺跡			○				県教委・協会(1988)『北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書X 長浜市国友遺跡』
112	志那中遺跡	○						県教委(1976)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 III-II』
113	箕浦城遺跡			○				県教委・協会(1991)『箕浦城・浄蓮寺遺跡』(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 XVIII-9)
114	金剛寺・後川遺跡			○	○			県教委・協会(1992)『金剛寺・後川遺跡』(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XIX-8)
115	大東ほか遺跡			○				県教委・協会(1993)『今川城遺跡・今川館遺跡・大東遺跡・極楽寺遺跡・中町田遺跡・今川東遺跡・十禅寺遺跡(事業名:大東ほか遺跡)』(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XX-1b)
116	尼子遺跡			○	○			県教委・協会(1993)『尼子遺跡』(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XX-4)
117	尼子遺跡				○			県教委・協会(1994)『在土北・尼子遺跡』(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XXI-3)
118	北落古墳群				○			県教委・協会(1994)『北落古墳群I』(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XXI-4)
119	北落古墳群			○				県教委(1995)『北落古墳群II』(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XXII-3)
120	後川遺跡			○				県教委・協会(1995)『後川遺跡』(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XXII-7)
121	小川原遺跡	○		○	○	○		県教委・協会(1996)『小川原遺跡3(本文編)』(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XXIII-5)
122	老蘇・観音寺城下町・上出B			○				県教委・協会(2000)『観音寺城下町遺跡・上出B遺跡・老蘇遺跡』(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書27-3)
123	上田上牧遺跡	○	○					県教委・協会(2000)『上田上牧遺跡III』(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書27-7)
124	芦刈遺跡・大中の湖南遺跡			○				県教委・協会(2005)『芦刈遺跡・大中の湖南遺跡』(ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書32-2)
125	竜ヶ崎A遺跡			○	○			県教委・協会(2006)『竜ヶ崎A遺跡』(ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書33-1)
126	関津遺跡			○				県教委・協会(2007)『関津遺跡I』(ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書34-2)
127	弘前遺跡			○				県教委・協会(2008)『弘前遺跡I』(ほ場整備関係(水質保全対策)遺跡発掘調査報告書35-1)
128	関津遺跡			○				県教委・協会(2009)『関津遺跡II』(ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書36-5)
129	鶴田遺跡			○				県教委・協会(2010)『肥田城遺跡・肥田西遺跡・鶴田遺跡』(ほ場整備関係(経営体育成基盤整備事業)遺跡発掘調査報告書37-1)
130	関津遺跡	○		○				県教委・協会(2010)『関津遺跡III 第3分冊』(ほ場整備関係(経営体育成基盤整備事業)遺跡発掘調査報告書37-4)
131	栗津湖底遺跡	○	○				○	県教委・協会(1992)『栗津湖底遺跡』(南栗津航路(2)浚渫工事に伴う発掘調査概要報告書)
132	敏満寺遺跡	○		○				県教委・協会(2004)『敏満寺遺跡』(名神高速道路(多賀サービスエリア)改良事業に伴う発掘調査報告書)
133	森浜遺跡			○				県教委(1978)『森浜遺跡発掘調査報告書<本文編>』 県教委・協会
134	森浜遺跡			○				県教委(1978)『森浜遺跡発掘調査報告書<図版編>』 県教委・協会
135	木瓜原遺跡			○				県教委・協会(1996)『木瓜原遺跡<本文編>』(立命館大学びわこ・くさつキャンパス造成工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書)
136	西河原宮ノ内・比留田法田遺跡	○	○	○	○			野洲市教委(2007)『県道荒見上野近江八幡線改良工事に伴う 西河原宮ノ内・比留田法田遺跡発掘調査報告書』
137	光相寺遺跡			○				野洲市教委(2013)『平成24年度 野洲市内遺跡発掘調査年報』
138	小比江遺跡			○				野洲市教委(2010)『平成21年度 野洲市埋蔵文化財調査概要報告書2』
139	街道・光明寺遺跡他			○				野洲市教委(2011)『平成22年度 野洲市埋蔵文化財調査概要報告書2』
140	市三宅東遺跡			○				野洲市教委(2010)『平成21年度 野洲市埋蔵文化財調査概要報告書』
141	大篠原東遺跡	○	○	○	○			野洲町教委(2001)『大篠原東遺跡発掘調査概要報告II』(野洲町文化財資料集2001-3)
142	小篠原遺跡						○	野洲町教委(2003)『野洲町文化財年報 2000』(野洲町文化財資料集2002-2)
143	手原遺跡ほか			○	○			栗東市文化体育振興事業団(2009)『栗東市埋蔵文化財調査報告 2007年度年報』
144	手原遺跡			○				栗東市文化体育振興事業団(2010)『栗東市埋蔵文化財調査報告 2008年度年報』
145	手原遺跡			○				栗東市文化体育振興事業団(2011)『栗東市埋蔵文化財調査報告 2009年度年報』
146	継遺跡	○						栗東町文化体育振興事業団(1993)『栗東町埋蔵文化財発掘調査 1992年度年報』
147	狐塚古墳	○		○				栗東町文化体育振興事業団(1993)『栗東町埋蔵文化財調査 1991年度年報II』
148	伊勢遺跡			○				栗東町文化体育振興事業団(1996)『栗東町埋蔵文化財調査 1993・1994年度年報II』
149	霊仙寺遺跡			○				栗東市教委・栗東市文化体育振興事業団(2008)『霊仙寺遺跡発掘調査報告書』(栗東市文化財調査報告書第8冊)

琵琶湖地域における人と森の相互関係史の解明に向けて（林竜馬・佐々木尚子・瀬口眞司）

AP-	遺跡名	花粉	大型	樹種	珪酸	珪藻	動物	掲 載 文 献
150	下之郷遺跡						○	守山市立埋蔵文化財センター(2000)『守山の歴史を掘る3』
151	古高・経田遺跡		○	○				守山市教委(2005)『古高遺跡・経田遺跡 今宿・古高土地区画整理区域の遺跡調査』
152	下之郷遺跡	○	○	○	○	○		守山市教委(2011)『下之郷遺跡の史跡整備に伴う発掘調査報告書I 自然科学分析編』
153	下之郷遺跡 第61・62次		○				○	守山市教委(2012)『下之郷遺跡の史跡整備に伴う発掘調査報告書II 遺構・遺物・総括編』
155	吉地薬師堂遺跡 第2次					○		中主町教委(1990)『吉地薬師堂遺跡第2次発掘調査報告書I』(中主町文化財調査報告書第22-1集)
156	吉地薬師堂遺跡	○						中主町教委(2004)『吉地薬師堂遺跡発掘調査報告書 第39次・第41次・第42次・第43次調査』(中主町文化財調査報告書第68集)
157	紫香楽宮跡(宮町遺跡)	○						甲賀市教委(2008)『紫香楽宮跡関連遺跡発掘調査概報 甲賀市・宮町遺跡』(甲賀市文化財報告第10集)
158	下川原遺跡	○						甲賀市教委(2006)『下川原遺跡掘調査報告書』(甲賀市文化財報告 第7集)
159	雪野山古墳			○				雪野山古墳発掘調査団(1996)『雪野山古墳の研究 考察篇』八日市市教委
160	宮ノ前遺跡		○					日野町教委(1988)『県営ほ場整備関係遺跡発掘調査報告 宮ノ前遺跡・中甲津遺跡・宮ノ後遺跡』(日野町埋蔵文化財発掘調査報告書第5集)
161	ブタイ遺跡	○		○				竜王町教委(2004)『ブタイ遺跡発掘調査報告書I』(竜王町埋蔵文化財発掘調査報告書第4集)
162	ブタイ遺跡	○				○		竜王町教委(2009)『ブタイ遺跡発掘調査報告書II』(竜王町埋蔵文化財発掘調査報告書第9集)
163	斗西遺跡		○	○				能登川町教委(1988)『斗西遺跡(本文編)』(能登川町埋蔵文化財調査報告書第10集)
164	斗西遺跡		○					能登川町教委(1988)『斗西遺跡(遺物図版編)』(能登川町埋蔵文化財調査報告書第10集)
165	斗西遺跡 2次調査		○	○				能登川町教委(1993)『斗西遺跡(2次調査)(本文編)』(能登川町埋蔵文化財調査報告書第27集)
166	宮の前遺跡 第4次・高岸遺跡		○					能登川町教委(1993)『西浦遺跡・宮の前遺跡(第4次)・高岸遺跡』(能登川町埋蔵文化財調査報告書第29集)
167	斗西遺跡 3次調査			○				能登川町教委(1993)『斗西遺跡(3次調査)(本文編)』(能登川町埋蔵文化財調査報告書第31集)
168	斗西遺跡 3次調査		○					能登川町教委(1993)『斗西遺跡(3次調査)(写真図版編)』(能登川町埋蔵文化財調査報告書第31集)
169	正楽寺遺跡	○	○	○			○	能登川町教委(1996)『正楽寺遺跡(5次調査)(本文編)』(能登川町埋蔵文化財調査報告書第40集)
170	石田遺跡	○	○	○				能登川町教委・能登川町埋蔵文化財センター(2005)『滋賀県神崎郡 石田遺跡 能登川駅西土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書(遺物編)』(能登川町埋蔵文化財調査報告書第58集)
171	安孫子北遺跡	○	○	○		○		秦荘町教委(1999)『安孫子北遺跡(第3次)』(秦荘町文化財調査報告書第13集)
172	檜崎古墳群						○	多賀町教委(2003)『檜崎古墳群(本文編)』(多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第12集)
173	土田遺跡						○	多賀町教委(2004)『土田遺跡 第4次調査・第5次調査』(多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第14集)
174	敏満寺遺跡 第2次・敏満寺石仏谷墓跡		○					多賀町教委(2008)『敏満寺遺跡 第2次調査』(多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第19集)
175	塚町遺跡			○				長浜市教委(1995)『地福寺遺跡・塚町遺跡発掘調査報告書』(長浜市埋蔵文化財調査資料第11集)
176	金剛寺遺跡		○				○	長浜市教委(1996)『金剛寺遺跡発掘調査報告書 加田地区農業集落排水施設関連』(長浜市埋蔵文化財調査資料第13集)
177	下坂氏館跡・下坂中中世墓群・大戌亥遺跡		○					長浜市教委(1997)『下坂氏館跡・大戌亥遺跡・下坂中中世墓群 下坂中下之郷線改良工事関連』(長浜市埋蔵文化財調査資料第18集)
178	福満寺遺跡・平方遺跡						○	長浜市教委(2000)『松ノ木塚古墳・四ツ塚古墳・福満寺遺跡・平方遺跡』(長浜市埋蔵文化財調査資料第38集)
179	宮司・神照寺坊遺跡						○	長浜市教委(2002)『宮司遺跡・長浜城遺跡・神照寺坊遺跡』(長浜市埋蔵文化財調査資料第41集)
180	長浜町遺跡	○	○					長浜市教委(2002)『長浜町遺跡第1次・第2次・第18次発掘調査報告書』(長浜市埋蔵文化財調査資料第42集)
181	小堀遺跡		○					長浜市教委(2004)『小堀遺跡・阿弥陀遺跡』(長浜市埋蔵文化財調査資料第59集)
182	内座遺跡				○			伊吹町教委(1995)『内座遺跡発掘調査報告書』(伊吹町文化財調査報告書第9集)
183	磯山城遺跡	○					○	米原町教委(1986)『磯山城遺跡 琵琶湖辺縄文早期～晩期遺跡の調査』(米原町埋蔵文化財調査報告書IV)
184	本願寺遺跡		○					米原町教委(1989)『本願寺遺跡発掘調査報告書 県営ほ場整備事業に伴う発掘調査』(米原町埋蔵文化財調査報告書XII)
185	入江内湖遺跡			○				米原町教委(1987)『入江内湖遺跡発掘調査報告書 米原町立米原小学校新設に伴う発掘調査』(米原町埋蔵文化財調査報告書VI)
186	入江内湖遺跡(行司町地区)		○	○				米原町教委(1988)『入江内湖遺跡(行司町地区)発掘調査報告書 滋賀県立文化産業交流会館建設に伴う発掘調査』(米原町埋蔵文化財調査報告書IX)
187	黒田遺跡		○					近江町教委(1991)『黒田遺跡』(近江町文化財調査報告書第12集)
188	黒田遺跡		○					近江町教委(1991)『黒田遺跡2』(近江町文化財調査報告書第13集)
189	碓遺跡			○				近江町教委(2001)『近江町埋蔵文化財調査集報4 碓遺跡第3次発掘調査』(近江町文化財調査報告書第22集)
190	定納古墳群			○				近江町教委(2005)『定納古墳群』(近江町文化財調査報告書第28集)
191	五村遺跡		○	○				奈良大学文学部考古学研究室(1997)『五村遺跡 いきがセンター建設に伴う発掘調査報告書』(虎姫町文化財調査報告書第2集)虎姫町教委
194	石山貝塚						○	県教委・協会(1991)『国道422号線改良事業に伴う 石山貝塚発掘調査報告書』
195	蛭谷遺跡						○	県教委・協会(2002)『緊急地域雇用特別交付金事業に伴う出土文化財管理業務報告書』
196	唐橋遺跡						○	県教委・協会(1992)『唐橋遺跡(本文編)』(瀬田川浚渫工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書II)県教委
197	唐橋遺跡						○	県教委・協会(1992)『唐橋遺跡(図版編)』(瀬田川浚渫工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書II)県教委
198	屋中寺廃寺遺跡						○	県教委・協会(1997)『屋中寺廃寺』(土地改良総合整備関連遺跡発掘調査報告書II-1)
199	野瀬遺跡						○	長浜市教委(1999)『野瀬遺跡発掘調査報告書』(長浜市埋蔵文化財調査資料第26集)
200	余呉湖底遺跡			○				余呉町教委(1985)『余呉湖底遺跡・松田遺跡』(余呉町埋蔵文化財発掘調査報告書1)協会

【編集後記】

当協会は、〈文化財をとおして地域に力強く貢献していくこと〉を組織の使命に掲げ、その基盤となる調査・研究能力を向上させ、その蓄積を形にしていくための場として『紀要』を位置づけてきました。今回、ここに30個目の結晶をお届けいたします。

本号では、縄文・古墳に関わる諸問題のほか、古代の地域の開発、瓦器の基礎的研究、戦国の城の位置づけ、さらには将棋や鉄道にまつわる歴史、人と森との関係史などが検討され、調査の過程で生まれた多様な課題に取り組む職員・関係者の姿を反映させるものとなりました。

地域と関係機関の協力の下に実施できた調査成果を適正に活かすため、更なる研鑽に励んで参ります。今後も皆様のご批判とご教導をあらためてお願いいたします。 (S. S)

紀要 第30号

刊行年月日：平成29年（2017）3月31日

編集・発行：公益財団法人滋賀県文化財保護協会

520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2

(tel) 077-548-9780 / (fax) 077-543-1525

(e-mail) mail@shiga-bunkazai.jp

<http://www.shiga-bunkazai.jp/>

印刷・製本：三星商事印刷株式会社